

野西高生 沿道で清掃活動



沿道のごみを拾い集める生徒たち



4年前に続いて合同運行に参加した野辺地西高

野辺地

4年ぶりに開催された野辺地町の「のへじ祇園まつり」最終日の20日、八戸学院野辺地西高(橋場保人校長)

町の生徒らが、合同運行で山車の展示場所となった町中心部の沿道でゴミ拾い奉仕に汗を流した。同校祭典部も囃子や山車などと共に合同運行に加わり、町中心部での山車展示が

祇園まつり 合同運行も参加

佳境を迎えた午後4時ごろ、生徒らの清掃奉仕がスタート。食べ物の包装紙やペットボトル、紙くずなどをきれいに拾い集め、町の景観美化に貢献した。

一時は閉校問題が持ち上がったものの、保護者や在校生らの願いから一転して存続が決まった同校。町での存在感を改めて示す格好にもなった。同校3年の長谷川陽大さん(18)は三沢市に「まつり自体が初めての経験で楽しかった。来春に大学進学を控えて、いい思い出になった」と笑顔を見せた。

また同校PTAの鈴木か子会長は「PTAも、まつりに参加した生徒への食事支援など一体となって頑張った。上北郡、下北郡唯一の私立高として、地域に貢献していきたい」と話した。(長谷川開文)